

## Constellation～世界をつなげる愛知県芸術劇場ダンスプロジェクト～【愛知県芸術劇場】

目的  
目標

愛知県芸術劇場が拠点となって、優れたダンス作品を創造することで、舞踊家（ダンサー・振付家）を中心にダンス作品の創作に関わる人材を育成し、ダンス作品の創作や海外ツアーの土壌を整え、日本の舞踊家の作品が世界各地で上演されることを目標とする。ひいては当劇場が日本のダンス作品のハブ劇場となり、国際的なプレゼンスの向上につなげる。

## 概要

年齢やキャリア、創作タイプやダンス技能が異なる3種類の舞踊家を、劇場ダンスアーティストと位置づけ、彼らによる作品の創作活動を行い上演する。当劇場で初演し、国内で再演、海外公演まで実施する。そのPR強化事業及び海外プロモーション活動を行う。これらの事業に、舞踊家だけでなく当館の制作者・舞台技術者等が参画することで、海外公演を実施できる技能・ネットワークを構築する。

Ⅰ：島地保武、酒井はな

Ⅱ：三東瑠璃

Ⅲ：Null（黒田勇、岡田玲奈）

舞台監督、照明、衣裳、演出助手、制作、舞踊ライター

## 3年目までの取組

- ・Ⅰ 2024年度から創作をスタートしているため、今後はメンターのフィードバックを元に国内外の上演機会を開拓。
- ・Ⅱ これから新作を創作するにあたり、海外公演を見据えたテクニカルチームの体制を整える。創作過程をメンターに見てもらい、上演機会の戦略を練り、上演に繋げる。
- ・Ⅲ これから新作の創作をスタートするところからメンターに伴走してもらい、クリエイション期間で振付・制作等の細やかなアドバイスをもらいながら創作を進め、国際的に通用する作品を作り、上演機会を模索。
- ・Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの劇場ダンスアーティストが、様々な愛知県芸術劇場主催公演・普及公演に出演し、広い劇場顧客層へ多様なダンスを波及させ認知度をアップ。
- ・海外での上演機会獲得を目指し、見本市参加や国際会議等でのプロモーションを行う。

## 5年目までの取組

- ・3年目までの成果を踏まえ、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲすべての劇場ダンスアーティストによる、国内での再演及び海外公演の実施。



酒井はな『瀕死の白鳥 その死の真相』より  
©Naoshi Hatori

## 国内公演【計10回】

- ・愛知県芸術劇場（2024年）

ほか

## 海外公演【計5回】

- ・欧米、アジア、オーストラリアの見本市、劇場、フェスティバル等での上演

## 成果目標（見込）

## 目標値

文化施設の公演活動に対する専門誌・専門家・批評家等による評価数（高評価）

15件  
（ダンスアーティストごとに5件）

本事業で創作された作品の再上演回数\*

作品ごとに  
5公演以上

\*再演は本事業外による実施を含む

育成する振付家・ダンサーや当該作品等についてのメディア掲載総数

600件

## 中核となるクリエイターやアドバイザー

愛知県芸術劇場芸術監督・プロデューサー 唐津絵理

1993年愛知芸術文化センター開館から舞踊担当学芸員として勤務。以来、愛知県芸術劇場を中心に、ダンスの公演・普及・育成などあらゆる企画に携わる。

2014年愛知県芸術劇場プロデューサーに就任。2022年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2024年愛知県芸術劇場芸術監督・常務理事に就任。



©Tatsuo Nambu

## 育成対象者：12－14人

舞踊家（5人）：

島地保武、酒井はな、三東瑠璃、Null（黒田勇、岡田玲奈）

作品創造に関わるスタッフ（7－9人）：

舞台監督、照明、衣裳、演出助手、制作、舞踊ライター

# 体制図

凡例

